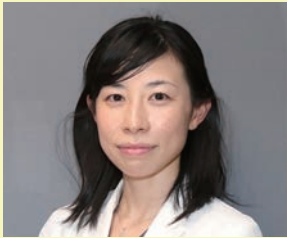




CRASEED 新人紹介



兵庫医科大学病院
たばた りょうこ
田端 涼子 先生

今年度より入局させていただきました、田端涼子と申します。奈良県立医科大学を卒業後、大阪赤十字病院で初期研修を修了し神経内科を専攻しておりました。出産・育児や家庭の都合で臨床を離れる期間があり、今後自分がどういう形で医療に携わりたいかを見つめ直した時に、医師を志すきっかけであったリハビリテーション医療に従事したいと思い、入局を決めました。至らぬ点も多々あるかと存じますが、精一杯努めて参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



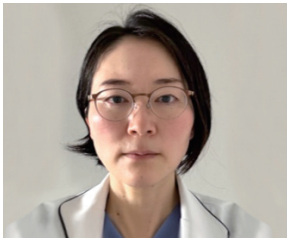
洛西シミズ病院
しばの りんすけ
芝野 綾香 先生

はじめまして。今年度より入局させていただきました、芝野綾香と申します。兵庫医科大学を卒業後、県立淡路医療センターで初期研修を行ったのち、神戸大学脳神経外科で勤務していました。脳外科で働く中でリハビリテーションの必要性を感じ、このたび転科でお世話になることになりました。リハビリテーション科1年目として現在は洛西シミズ病院でお世話になっております。至らない点も多くご迷惑をおかけすること多いと思いますが、たくさん学んでいけたらと思います。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



兵庫医科大学病院
いけだ やすゆき
池田 泰之 先生

はじめまして。2020年に滋賀医科大学を卒業後、東近江総合医療センターで初期研修を終え、まず小児科として大阪大学のプログラムで3年間研鑽を積んで参りました。小児科でリハビリテーション医療の重要性を強く認識し、長期間にわたって生活を支える医師になりたいと思い、リハビリテーション科を志望しました。微力ながらお役に立てるよう尽力いたします。どうぞよろしく願いいたします。



関西リハビリテーション病院
まつもと けいな
松本 桂奈 先生

2025年4月より関西リハビリテーション病院にてリハビリテーション科専攻医としての研修を開始しました。初期研修終了後、2年間一般内科研修をし、多くの患者さんが口から食事を摂れなくなったり、介護量の大きさから自宅退院できなかったりするのを見て、より効果的なリハビリテーションを学びたいと思うようになりました。リハビリテーションも脳卒中も整形疾患もほぼゼロからの経験となりますが、経験豊富な先生が多く在籍される環境での研修を楽しみにしております。ご指導よろしく願いいたします。



洛西シミズ病院
せとやま ちさ
瀬戸山 千紗 先生

今年度より入局させていただきました、瀬戸山千紗と申します。徳島大学を卒業後、徳島市民病院にて初期研修を修了しました。出身は広島県ですが、兵庫県や香川県、岡山県にも住んでいたことがございます。患者様のQOLと一緒に考えられることに魅力を感じリハビリ科医への道を志しました。患者様に寄り添い、疾患のみならず生活まで総合的に診れる医師になりたいと考えております。ご迷惑をおかけいたしますが、よろしく願いいたします。



西宮協立リハビリテーション病院
あきやま りょうこ
東 茉由子 先生

今年度より入局させていただきました、東茉由子と申します。私は兵庫医科大学を卒業後、宝塚市立病院で2年間の初期研修を修了しました。急性期病院で感じたこととして、患者さんは今後どういう経過を辿り、どんな家族がいてこれまでどういった生活をしていたのかということでした。患者さんがこれから歩いていく道の支えになりたいと思ったことがリハビリ科への興味の第一歩でした。未熟で至らぬ点もございますが、皆様のお役に立てるよう精進いたしますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

CRASEED News

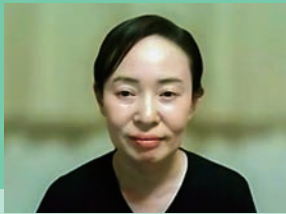
Organization for
Clinical Rehabilitation with
Advanced Science and Effective EDutation



特定非営利活動法人 リハビリテーション医療推進機構 CRASEED

発行：NPO法人リハビリテーション医療推進機構CRASEED／年3回発行／第59号（2025年6月1日（日）発行）
〒560-0054 大阪府豊中市桜の町3-11-1 関西リハビリテーション病院内 TEL: 06-6857-9640 <http://craseed.org>

骨盤底筋トレーニングの基礎と臨床セミナー



講師 森明子先生
（兵庫医科大学）



講師 横井悠加先生
（城西国際大学）



講師 辻野和美先生
（ホリスティックヘルス研究会）



講師 安倍弘和先生
（日本橋骨盤底診療所）

セミナーを受講して感じたことー骨盤底筋領域を初めて意識して

リハビリテーション科での研修を開始して早くも1年が過ぎようとしていた2025年2月に、骨盤底筋トレーニングの基礎と臨床セミナーを受講いたしました。恥ずかしながら今まで診療の中で骨盤底筋という領域を意識したことはなく、ほとんど事前知識がないまま受講となりました。まずは骨盤底筋と各骨盤臓器の解剖学的関係性や機能における筋肉の動き方について丁寧に解説があり、骨盤底筋運動の重要な部分を理解することができました。その後骨盤底筋トレーニングを正しく行わなければ効果が正しく得られないため、骨盤底筋の動きを感じることができるセッティングをした上で、呼吸を意識しながらのトレーニング法についての説明を聞きました。実際の動作を動画で示してもらいながら、自身でも実践できたため骨盤底筋の動きを普段自身が全く意識していなかったことが分かりました。特に女性は産後の影響や年齢とともに排尿コントロールの領域でトラブルが起こりやすいことは知っておりましたが、投薬以外の具体的なアプローチ法は自

身の中で認識できておりませんでした。講義の中で骨盤底筋トレーニングがガイドライン等でも推奨されており、治療の一環として重要な役割があることを知りました。また最後にリハビリテーション科でも多く経験する股関節周囲の疾患や股関節周囲の柔軟性も排尿に大きく影響するという事実を、実際の症例を提示いただくことで強く印象に残りました。通院あるいは入院している患者さんの中で、診療時に自らの訴えはなくても排尿に関連したトラブルで困っておられる方は多くいるだろうと思います。医療者からの積極的な問いかけや症状に対する骨盤底筋トレーニングでのアプローチを実施することができれば、より深い信頼関係を築ききっかけにもなるだろうなと感じました。今後の臨床の中でさらに骨盤底筋についての経験と知識を積んでいきたいと思います。

関西リハビリテーション病院 青柳貴之 先生

実践を交えて骨盤底筋を極める

2025年2月8日に骨盤底筋トレーニングに関するオンラインセミナーが初開催され、私も受講し多くの学びがあったためご報告させていただきます。今回のセミナーでは骨盤底筋に精通されている先生方が骨盤底筋の解剖からトレーニング内容、エビデンス、症例検討について講義頂き、知識0の私でさえも理解しやすい内容となっております。解剖については骨盤底の複雑の構造を泌尿器科医の先生がエコー動画を交えてご教授頂き、実際の骨盤底筋の動きを見ることで訓練時にイメージが湧きやすくなりました。トレーニングの項目では動画を交えながら視聴者も体験する形式となっております。私も講義中に実践してみましたが、はじめは骨盤底筋の動きを感じにくく、自分がいかに骨盤底筋を使えていないかを実感しました。講義に沿ってタオルで感覚入力を行うことで骨盤底筋の収縮を感じ取れるようになり、骨盤底筋が普段使えていない方において感覚入力的重要性について

身を持って経験できました。症例検討では実際の患者さんへの個々の指導内容やその後の変化について学ぶことができ、臨床場面での実施方法が明確となりました。骨盤底筋トレーニングは骨盤臓器脱や排尿排便障害だけでなくフレイル予防にも有効で、妊娠出産を経験した女性、中高年から高齢者まで幅広い方が対象となります。しかし骨盤底筋は目に見えず効果が実感されにくい、適切な指導者のもと適切な指導を受ける必要があります。私も対象となる方への適切な自主訓練指導ができるよう今回の骨盤底筋トレーニングの講義を復習し臨床業務に活かしながら習熟していきたい所存です。最後にこのような貴重な講義の受講の機会をいただき、CRASEEDの皆様には感謝申し上げます。

八家病院 勝盛拳人 先生

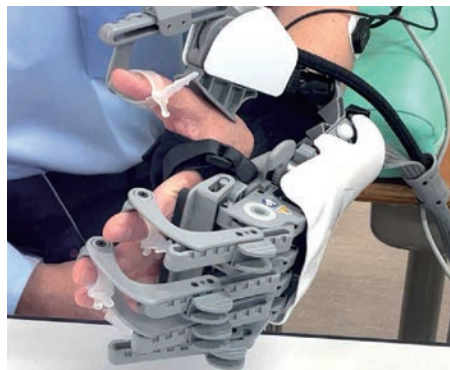
リハビリテーションロボット 機器紹介「MELTz(メルツ)」

2024年12月より兵庫医科大学病院にて、能動型展伸・屈伸回転運動ロボット「MELTz(メルツ)」が導入されました。MELTzは、医療・リハビリテーション治療分野における上肢運動支援を目的として開発された最新のロボット機器です。

MELTzの特徴は、従来の受動型リハビリテーション治療機器と異なり、ユーザーの動きに応じて能動的に補助を行う点にあります。搭載された高精度センサーが筋電位と筋出力をリアルタイムでモニタリングし、個々の患者に最適な運動支援を提供します。また、MELTzは手指に対するモジュール構造を採用しており、目的に応じて訓練内容を変更することが可能です。例えば、手指の受動的な屈伸運動から人工知能(AI)によるフィードバック機能を用いた能動的運動まで、幅広いリハビリテーション治療プログラムに適応できます。さらにロボットを装着したまま、様々な上肢の課題指向型訓練を行うことができます。操作はタッチパネルを採用しており、医療従事者の負担も軽減されます。さらにクラウドベースのデータ管理システムを備えており、運動履歴や改善状況を記録・解析することができ、長期的なリハビリテーション治療計画の策定にも役立ちます。

高齢化が進む社会において、こうした先進的なリハビリテーション支援ロボットは、医療現場における重要な役割を担っていくことでしょう。今後は、在宅リハビリテーションや遠隔診療との連携による活用し、リハビリテーション医療の質を高める次世代の支援機器になれるよう、どんどん使用していきたいと思います。

兵庫医科大学病院 露口直樹 先生



医療法人春秋会 城山病院 病院紹介

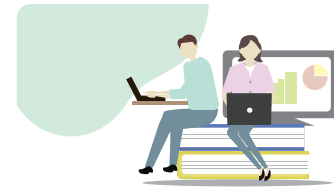
医療法人春秋会 城山病院は昭和53年に脳神経外科、外科、内科として羽曳野市古市で開設され、平成18年に現在の羽曳が丘に移転しました。病院理念として、「城山病院は患者さまのために存在します」を掲げており、現在21の診療科があり、このうち内科と外科が協力して診療を行う3つの臓器別診療センター(脳・脊髄・神経センター、心臓血管センター、消化器センター)に整形外科を加えた4分野が大きな柱となっています。病床数は299床(一般病床240床、特定集中治療室8床、回復期リハビリテーション病床51床)となっており、年間入院患者数は100,756人、年間手術件数4,193人、年間救急件数4,946人(2023年度)でした。

病院におけるリハビリテーション科としましては、急性期・回復期・介護老人保健施設さし・城山病院訪問看護ステーションに関与しており、現在リハビリテーション科医は、常勤2名体制で、主には回復期リハビリテーション病床の診療を担っております。回復期病床の疾患は、主に脳血管疾患8割、運動器疾患2割で平均在院日数約60日、重症度率44%、在宅復帰率約87%、実績指数は65.79です(2024年度)。在籍PT61名(回復期専従19名)、OT13名(回復期専従2名)、ST13名(回復期専従2名)のほか、看護師、医療ソーシャルワーカー、栄養士等多職種と連携しながら、患者さまの目標に向け、日々

診療にあたっております。

急性期から回復期、生活期と一貫した医療提供を目指し、よりよい社会生活を送れるよう地域医療へ貢献するように今後も努めていきたいと思っています。

城山病院 小倉沙耶香 先生



論文執筆のコツ



理系の学術分野では、研究成果は主に論文の形で発表されます。リハビリテーション医学もその例外ではありません。しかし、多くの人にとって論文執筆は心理的な負担となりがちです。しかし、いくつかのコツを押さえれば、論文執筆はより楽しく、創造的な作業となります。ここではそのコツを紹介します。

論文執筆において最も大切なのは論理構成です。医療系の論文は文学や哲学のように難解である必要はなく、むしろシンプルな構成が求められます。基本となる考え方は、「抽象と具体」「並列と対比」「比較と統合」の3つです。まず、日々の診療から得られる漠然とした疑問を、具体的に検証可能なリサーチクエスチョンへと絞り込みます。次に、過去の文献を並列・対比させることで、適切な研究方法を明確にします。研究の結果を既存の文献と比較し、それらと統合することで、新たな知見を位置づけます。

また、論文執筆のヒントとして、近代・現代芸術の手法が参考になります。例えば、印象派の指導者であったマネをはじめ、多くの芸術家は過去の作品を引用しながら新たな作品を生み出しました。これは、論文が既存研究を引用しつつ新たな知見を加えるプロセスと共通して

います。また、優れた絵画には明確な構図があります。論文においても分かりやすい図表の作成が重要です。論文紹介の場では、主に抄録と図表が示されるため、視覚的に整理された図表が論文の理解を助けます。

さらに、「既製品の活用」という視点も有益です。例えば、アンディ・ウォーホルのキャンベル・スープの缶を並べた作品のように、既存の要素を新しい文脈に組み込むことで価値を生み出すことが可能です。医学論文においても、その図表の多くは、エクセルや統計ソフトの出力を並べたものです。単純な既製品の単純な羅列でも、明確な論理構成を伴ったものであれば、新しい文脈に位置付けることができます。以上のように、1)論理構成を整理すること、2)既存文献との関連性を意識すること、3)視覚的にわかりやすい図表を作成すること、の3つのポイントを押さえれば、論文執筆は創造的で楽しい作業となるでしょう。

参考文献)小山哲男「連載 英語論文の書き方 誰も教えてくれなかったコツ」
Jpn J Rehabil Med, 2020年4-6月号

西宮協立脳神経外科病院リハビリテーション科 部長 小山哲男 先生

CRASEED reha-pro Seminars 2025案内

CRASEEDセミナー情報



問い合わせ/申し込み

NPO法人
CRASEED事務局
<http://craseed.org/>

オンラインセミナー

■ 脳卒中予後予測セミナー

誰でもできる簡単な予後予測方から脳画像解析の最新知見まで、幅広い知識が身につきます。

日時 2025年8月2日(土)10時～16時

受講料 8,000円

■ 実践CI療法講習会

明日から生かせる!CI療法の基礎から実践までじっくり学べます。

日時 2025年8月3日(日)10時～16時

受講料 8,000円

■ 脳卒中リハビリテーションの達人になるために

リハビリ医療の大きな柱のひとつである装具療法について、学術的背景や臨床での実践をレクチャーします。

日時 2025年8月9日(土)10時～16時30分

受講料 8,000円

■ 骨盤底筋トレーニングの基礎と臨床

昨年大好評のセミナー!骨盤底筋の基礎知識からトレーニング、症例検討まで幅広く学べます。

日時 2025年12月7日(日)10時～16時

受講料 8,000円

■ 西日本公式第26回「ADL評価法FIM講習会」

FIMver.3.0の評価基準を、オリジナル動画や具体的な症例を通して詳しく解説します。

日時 2025年12月13日(土)午前の部:9時～12時、午後の部:13時～16時

受講料 6,000円(午前の部と午後の部は同じ内容です)

現地開催 講師からの熱血指導!実技を直接目で学べます!

■ 呼吸理学療法実践セミナー

2日間にわたり正確なアセスメント技術と臨床に即した呼吸理学療法手技の完全マスターを目指します。1日だけの参加も可能です。

日時 1日目:2026年2月21日(土)10時～16時 午前:講義、午後:実技演習
2日目:2026年2月22日(日)10時～16時 午前:講義、午後:実技演習

会場 兵庫医科大学西宮キャンパス 受講料 各日15,000円/両日27,000円